

【今週の注目疾患】

《後天性免疫不全症候群》

2025年の年間累計届出数は37例であった。※2026年は1月13日時点で届出なし。

性別では、男性36例（97%）、女性1例（3%）であり（図1）、病型別では、無症候性キャリアが21例（57%）、AIDSが12例（32%）であった（図2）。

図1: 県内の後天性免疫不全症候群性別診断年別届出数
(2016-2025年, 2026年1月13日時点)

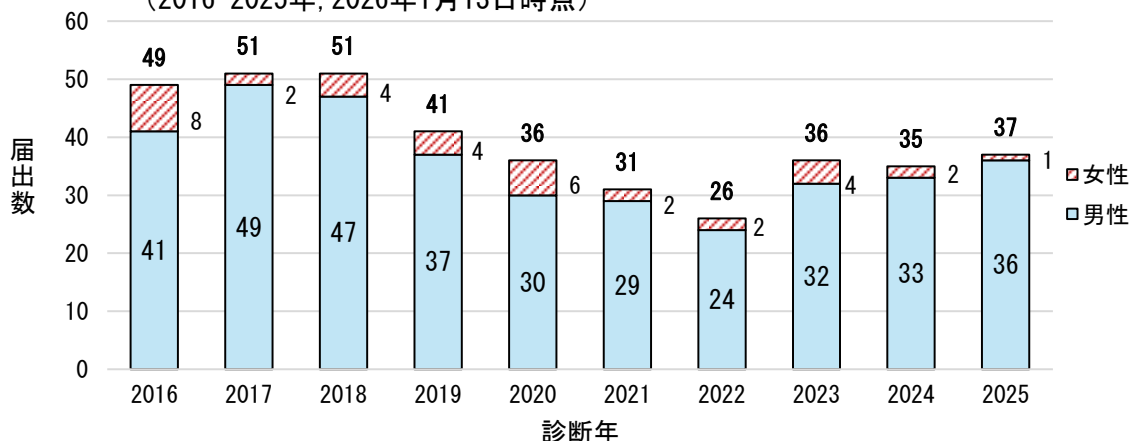
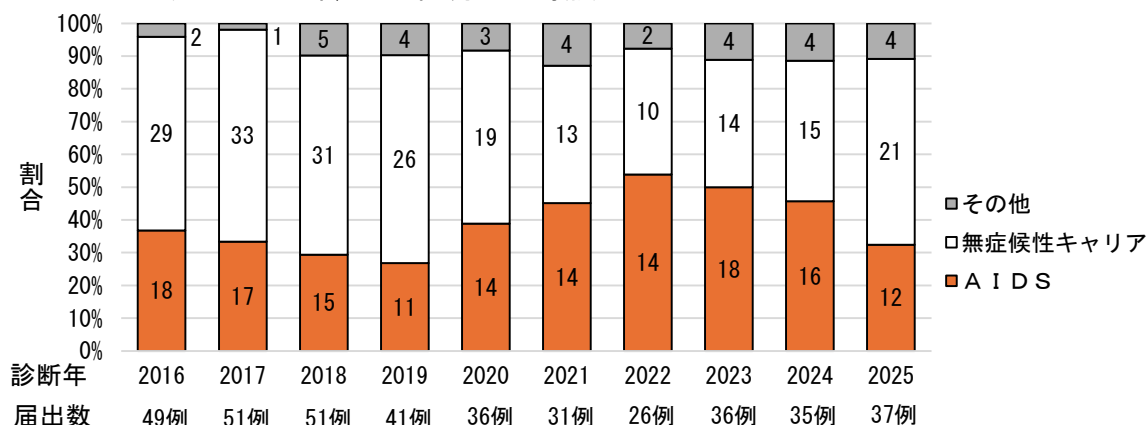


図2: 県内の後天性免疫不全症候群の診断年別病型別届出数・割合
(2016-2025年, 2026年1月13日時点)



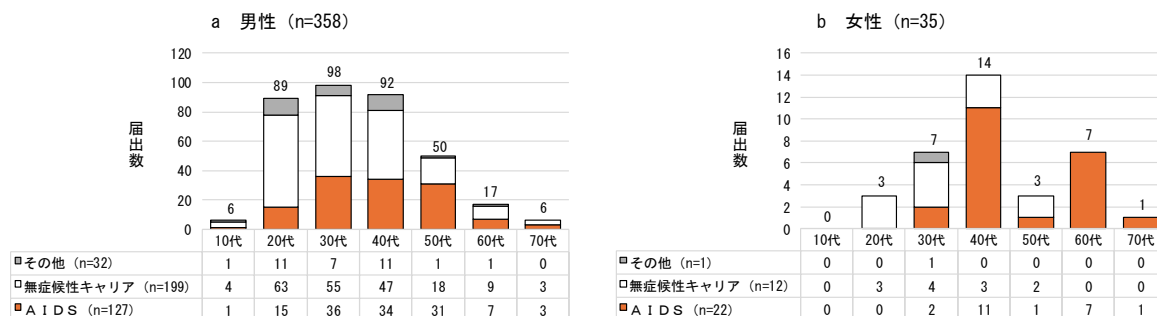
2016年から2025年までに届出のあった393例の概要は以下のとおり。

性別では、男性358例（91%）、女性35例（9%）であり、男性が約9割を占めた。

病型別では、男性は無症候性キャリアが最も多く199例（56%）、次いでAIDS127例（35%）、その他32例（9%）であった。一方、女性はAIDSが最も多く22例（63%）、次いで無症候性キャリア12例（34%）、その他1例（3%）であった（図3）。

年齢群別では、男性は30代が98例(27%)で最も多く、次いで40代92例(26%)、20代89例(25%)であり、20代から40代が約8割を占めた。女性は40代が14例(40%)で最も多く、30代及び60代各7例（各20%）と続いた（図3）。

図3：県内の後天性免疫不全症候群性別・年齢群別・病型別届出数（2016-2025年、2026年1月13日時点）



後天性免疫不全症候群は、ヒト免疫不全ウイルス（human immunodeficiency virus ; HIV）に感染することで免疫不全が生じ、健常者では通常見られないさまざまな日和見感染症や悪性腫瘍が合併した状態をいう。HIV感染の自然経過は感染初期（急性期）、無症候期、AIDS発症期の3期に分けられ、時間が経過するとともに免疫システムの破壊が進行するため、早期診断、治療がとても重要となる。近年、さまざまな研究において、効果的な抗HIV治療を受けて血液中のウイルス量が検出限界値未満（Undetectable）のレベルに抑えられているHIV陽性者からは性行為によって他の人に感染しない（Untransmittable）こと（U=U）が分かってきており、早期治療の開始で新たな感染を防止する（Treatment as Prevention; T as P）という考え方が主流になっている^{1,2)}。

無料・匿名の検査を実施しています

県では、保健所等において無料・匿名のエイズ等の検査を実施しています。不安なことがある場合には、県ホームページ等でスケジュールや予約方法をご確認の上、ご活用ください³⁾。さらに、これまでの保健所等での検査に加え、令和8年1月14日から新たにHIV郵送検査事業を開始しました。郵送検査は受検者自身が採取した検体を検査会社に郵送し検査を行うものです。対象は、千葉県内（千葉市、船橋市、柏市を除く）の居住者となります。その他、詳細につきましては、県ホームページをご覧ください⁴⁾。

■参考・引用

1) 国立健康危機管理研究機構：AIDS（後天性免疫不全症候群）

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/alphabet/aids/index.html>

2) 厚生労働省：HIV とエイズ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/aids/index.html

3) 千葉県健康福祉部疾病対策課：千葉県内のエイズ等相談・検査

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/aids/soudan.html>

4) 千葉県健康福祉部疾病対策課：HIV 郵送検査について

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/kansenshou/yusokensa.html>